

## 第15回航路整備技術検討委員会における 主要意見と対応方針

### (1) 環境影響評価の総括（資料-4）について

No	主要意見	対応方針
①	サンゴ礁海域での工事は他事例がないため、試験施工が必要不可欠であった旨を記載してほしい。	試験施工の有用性として整理した。
②	今後のサンゴ礁海域での工事の参考となるよう、それぞれの大まかな対策費用などコストについての記載があってもよいのでは。	竹富南航路浚渫工事は施工期間や施工方法が他事例とは異なり比較が難しいため、今後の参考となるような対策毎の費用の記載は難しい。
③	最初に2ページくらいで総括リストがあるとよいのではないかと。 サンゴ礁海域での工事の事例は日本のみならず、世界でも有用なので英文でも発信してほしい。特にサンゴ移設の部分は重要であり、すぐにでも発信してほしい。4ページくらいの概要版（日本語および英語）があるとよいのでは。 2016年の大規模白化後、サンゴ移植事業に対して世界は好意的になっている。	日本語および英語の概要版を作成した。 本資料は名称を「航路整備に関する環境配慮記録」とし、「事業完了後の環境監視調査および移設サンゴのモニタリング計画」と共に事業完了後に事業者ホームページで公表する。
④	全体的に図表の字が小さい、単位が無いなど分かりづらい。	ご指摘にしたがって修正した。
⑤	最初に本書の趣旨や思いがあると理解しやすいのでは。	はじめに、として追記した。

⑥	<p>海域生物及び海域生態系の事後調査で「結果は予測の範囲内であった」とあるが、予測のところを読むとつじつまが合わない。整合性を確認してほしい。</p>	<p>注意書きで補足説明をした。</p>
⑦	<p>総括は全般的に書きぶりを見直した方がいい。「一時的なインパクト」や「環境悪化」などの表現は何を指しているのか分かりづらいため、具体的に記載した方が良い。</p>	<p>ご指摘に従って見直した。</p>
⑧	<p>シルトをサンドポンプで吸い取った対策は効果があったのか確認してほしい。</p>	<p>汚濁防止膜に付着したシルトを吸い取る事により、周辺への濁り対策として効果があった。</p>

(2) 航路埋没の可能性の検討（資料-6）について

No	主要意見	対応方針
①	台風が多いと法肩に堆積し少ないと潮流により掃流されるという仮説について、堆積はイベント依存であり、掃流は規則的に起こっているはずだが、掃流が一定に見えないのはなぜか。a0は掃流を表現しているのか。物理的なメカニズムとの対応関係を再整理してほしい。	厳密には、a0が掃流を表現しているのではないが、掃流の寄与は大きいと考えられる。重回帰は波のエネルギーとの関連をみているので、波のエネルギーが小さい期間は浸食が大きく、定常的な流れの影響が相対的に大きいことを示している。 追加の変数に測量期間（長いほど掃流効果が大きい）を加えた解析を行ったが、有意な差はみられなかった。
②	北からの高波浪が法面堆積に寄与するとあるが、竹富島があるため区間1は遮蔽されているのに区間1西側に堆積傾向がみられるのはなぜか。	北からの波について、竹富島の遮蔽域と直接入射する範囲と考えられる領域に分割して解析を行った。
③	T1513(南からの高波浪を受ける台風)を用いて全域のシミュレーションを行っているが、区間1では北からの波の台風が堆積に寄与するとあった。今後も全域ではT1513のみで検討するのか。	再現期間の必要に応じて波浪条件を設定し、再現性の検討を行った。全域での予測においては、北と南のそれぞれの既往最大波浪（南：T1513、北：1808・1824・1825）を用いて評価した。